

8. 国際交流

① 外国人研究者、来訪者の受入れ状況

受入期間	氏名	国名・所属機関・職名	目的
平成 25 年 4 月 5 日～ 4 月 12 日	Adel Elsayed Ahmed Mohamed	エジプト South Valley University 教授	SALMAN Doaa Mahmoud Abass(研究生)に関する研究 指導
平成 25 年 4 月 12 日	Nosicelo Mbele	駐日南アフリカ全権公使	原虫病研究センター施設見学 と留学生受け入れの可能性に 関する意見交換
平成 25 年 4 月 12 日	Phindiwe Dingile	南アフリカ大使館農林水 産担当参事官	原虫病研究センター施設見学 と留学生受け入れの可能性に 関する意見交換
平成 25 年 5 月 2 日～ 7 月 3 日	Oriel Thekiso	南アフリカ University of The Free State Qwaqwa Subject Head	南アフリカの家畜トリパノソ マ症分子疫学調査に関する共 同研究
平成 25 年 7 月 3 日～ 8 月 30 日	XUE Shujiang	中国 延边大学獣医学部 助教	アピコンプレックス門原虫の分 子生物学的解析に関する研修
平成 25 年 9 月 2 日～ 9 月 6 日	具 潤景	韓国 慶北大学医学部 助教	マラリア・トキソプラズマに関す る共同研究、マラリア・ハマダ ラカ感染系に関する技術移転
平成 25 年 9 月 30 日～ 12 月 30 日	Mohamed Mosaab	エジプト South Valley 大学 講師	バベシア病に関する研究、技 術移転
平成 25 年 10 月 29 日 ～ 11 月 5 日	Eka Suradji	インドネシア Health office of Teluk Bintuni regency	共同研究実施(植物由来成分 の抗熱帯熱マラリア原虫活性 に関する研究)
平成 25 年 11 月 11 日	周金林	中国農業科学院上海獸 医研究所	日中二国間共同研究実施
平成 25 年 11 月 11 日	黄兵	中国農業科学院上海獸 医研究所	日中二国間共同研究実施
平成 25 年 11 月 11 日	張厚双	中国農業科学院上海獸 医研究所	日中二国間共同研究実施
平成 25 年 11 月 11 日	周勇志	中国農業科学院上海獸 医研究所	日中二国間共同研究実施

外国人研究者、来訪者の受入れ状況・続き

受入期間	氏名	国名・所属機関・職名	目的
平成 25 年 12 月 2 日～ 12 月 13 日	Kye Soo-Jeong	韓国動植物検疫庁 獣医研究員	馬ピロプラズマ病の診断技術 研修
平成 25 年 12 月 8 日～ 12 月 13 日	Edvouard Vannier	アメリカ タフツ大学医学部 助教 授	大学院博士課程特別講義
平成 25 年 12 月 8 日～ 12 月 10 日	ハツェツェグ バドガー	モンゴル国立獣医学研 究所 所長	SATREPS 実施に関する研究 打ち合わせ
平成 25 年 12 月 8 日～ 12 月 10 日	バンズラク バツール	モンゴル国立農業大学 農学部長	SATREPS 実施に関する研究 打ち合わせ
平成 25 年 12 月 8 日～ 12 月 17 日	バトサイアン エンタイヴ アン	モンゴル国立獣医学研 究所 研究員	モンゴルで採集したウシおよ びダニ由来 DNA 検体からの 原虫遺伝子増幅に関する共同 研究
平成 25 年 12 月 14 日 ～12 月 22 日	Ferda Sevinc	トルコ Selcuk 大学 教授	大学院特別講義、マダニ媒介 原虫感染症の制御に関する研 究打ち合わせ
平成 26 年 1 月 14 日～ 3 月 9 日	Panagiotis KARANIS	University of Cologne medical school 教授	共同研究実施(JSPS 外国人 招へい研究者事業)
平成 26 年 1 月 14 日～ 3 月 9 日	Gabriele KARANIS	Doctor for surgery, Orthopaedics and Traumatology.	共同研究実施

② JICA研修コース

コース名称: 原虫病及び食品媒介感染症上級専門家育成

受入期間: 平成 25 年 10 月 22 日 ~ 平成 26 年 8 月 22 日

研修生情報

国籍	氏名	現職
インドネシア	Puttik Allamanda	スバン家畜疾病診断センター 家畜衛生研究室 職員
ウガンダ	MUGIMBA Kizito Kahoza	マケレレ大学／ウガンダ・カンパラ獣医科大学 生物工学診断科学部 教育助手
ベトナム	DANG Trinh Minh Anh	保健省 ホーチミン市パスツール研究所 微生物・免疫学研究室 研究官

使用言語: 英語

コースの背景と目的

世界の人口は、21 世紀半ばに現在の約 1.5 倍(90 億人)に達すると見込まれるが、特に新興国・開発途上国では、未来の動物性蛋白質の安全確保のため、家畜感染症による食料生産阻害の現状を早急に打開することが懸案となっている。一方、これら感染症のほとんどは人獣共通感染症で、食料問題のみならず、直接に人々の健康並びに安全な社会活動を脅かしている。途上国では、これら感染症のコントロールを国際社会と協調して実践する高度専門家の育成が喫緊の課題となっている。先の G8 北海道洞爺湖サミット首脳宣言においても、マラリア等感染症の診断、ワクチン、治療薬の開発研究や公衆衛生上の問題に対処するための開発途上国の能力開発支援を強化することが提唱されている。また、世界 178 ヶ国が加盟して家畜と畜産品の安全・安心確保を目指す国際機関「国際獣疫事務局(OIE)」では、世界最先端の感染症研究組織をコラボレーティングセンターとして認定し、当該組織の研究成果を新たな感染症診断法やワクチンの国際標準化に活用している。近年、OIE においても、開発途上国における感染症診断技術、公衆衛生の向上を図るため、コラボレーティングセンターの開発途上国に対する貢献を重要視しており、平成 20 年 5 月にアジアで初めて OIE に認定された本センターにも大きな期待が寄せられている。

本 JICA コースでは、教員等のスタッフと研究設備が整った本センターにおいて、人畜共通感染症の制圧に携わる途上国専門家が、感染症対策に直接関連した予防・

診断・治療技術とその実践に役立つ周辺専門知識を習得し、途上国での人畜共通感染症の予防・診断・治療技術の質が向上することを目的とする。

研修方法

研修員は、技術研修冒頭において、導入共通科目として、人畜共通感染症、原虫病、細菌性感染症、ウイルス性感染症、食物が媒介する感染症、実験器具や実験動物の取扱い、血清診断の基本について学ぶ。その後、各研究分野のいずれかにて、個別に指導教員の指導のもと、先端研究技術を習得する。1ヶ月に2回ほど、本センター教員に加えて、学内外研究機関の専門家による、原虫病、細菌性感染症、ウイルス性感染症関連の特別講義も提供する。

研修員の評価等

インセプションレポート(初期報告書)発表会

本コースの初期に、研修員の母国における人畜共通感染症の現状およびそれらが引き起こす問題を把握するため、研修員によるインセプションレポートの発表会を行う。

中間レポート発表会

本コースの中間期において、研究の進捗についてまとめて発表を行う。

インテリムレポート

同報告書は、研究成果をまとめた論文形式のものと帰国後に研修で得た知識やスキルが、自国の感染症対策の問題点の解決にどのように寄与し得るかまとめたエッセイの2つから成る。研修員はコース終了時にファイナルレポート発表会で同レポートの発表を行う。

マンスリーレポート

毎月の研究進捗状況に関するレポートを提出する。

③ 教員の海外派遣状況

期 間	職 名・氏 名	渡航先(国名)	目 的
2013年4月14日～19日	教授 鈴木 宏志	マレーシア	International Malaria Symposium 2013 参加発表
2013年4月14日～19日	教授 河津 信一郎	マレーシア	マラリア国際シンポジウム 2013 参加
2013年4月20日～26日	教授 横山 直明	ベトナム	現地調査、研究成果の報告と意見交換
2013年5月24日～28日	教授 井上 昇	フランス	トラティエ博士との研究打ち合わせ、非ツェツェ媒介性動物トリパノソーマ症【NTTAT】専門家会議参加発表
2013年6月9日～15日	教授 鈴木 宏志	中国	学術交流
2013年6月9日～15日	教授 玄 学南	中国	学術交流
2013年6月21日～27日	特任准教授 加藤 健太郎	イギリス	12th International Congress on Toxoplasmosis にて研究成果発表
2013年7月7日～16日	准教授 福本 晋也	ブルキナファソ	マラリア媒介蚊のサンプリング・研究打合せ
2013年7月22日～28日	教授 鈴木 宏志	カナダ	第 46 回 Society for the Study of Reproduction Annual Meeting 2013 参加発表
2013年7月26日～30日	教授 井上 昇	モンゴル	地球規模課題採択に係る第一回関係者会議参加
2013年7月26日～30日	教授 横山 直明	モンゴル	地球規模課題採択に係る第一回関係者会議参加
2013年8月24日～31日	教授 五十嵐 郁男	オーストラリア	第 24 回世界獣医寄生虫学会出席・研究成果発表
2013年8月24日～31日	助教 白藤 梨可	オーストラリア	24th International Conference of the World Association for the Advancement of Veterinary Parasitology (WAAVP) 参加発表
2013年9月8日～14日	教授 井上 昇	モンゴル	地球規模課題採択に係る第 2 回関係者会議参加
2013年9月8日～14日	教授 横山 直明	モンゴル	地球規模課題採択に係る第 2 回関係者会議参加
2013年9月8日～14日	准教授 五十嵐 慎	モンゴル	研究打ち合わせ
2013年9月23日～29日	教授 河津 信一郎	フィリピン	州政府対策局打ち合わせ、フィールド調査、サンプル調査・研究打ち合わせ

教員の海外派遣状況・続き

期 間	職 名・氏 名	渡航先(国名)	目 的
2013年10月6日～17日	教授 井上 昇	モンゴル	SATREPS 関係者協議
2013年10月8日～13日	教授 鈴木 宏志	中国	Asean & China-Japan-SouthKorea (10+3) workshop on prevention & control of animal infectious diseases 参加発表
2013年10月28日～ 11月3日	教授 五十嵐 郁男	アメリカ	人バベシア症に関する共同研究の実施
2013年11月13日～ 20日	教授 河津 信一郎	アメリカ	第62回米国熱帯医学会参加、研究打ち合わせ
2013年11月15日～ 12月3日	教授 井上 昇	南アフリカ	アフリカトリパノソーマ診断法開発、疫学調査に関する共同研究
2013年11月22日～ 29日	教授 五十嵐 郁男	エジプト	学位審査にかかる打ち合わせ、予行演習、学位審査、研究打ち合わせ
2013年12月7日～13日	教授 鈴木 宏志	タイ	Scientific meeting of former JICA participants of NRCPD in Bangkok の準備・打ち合わせ・開催
2013年12月7日～13日	教授 玄学 南	タイ	Scientific meeting of former JICA participants of NRCPD in Bangkok の準備・打ち合わせ・開催
2013年12月9日～13日	教授 河津 信一郎	タイ	JITMM2013 参加
2014年1月5日～8日	教授 鈴木 宏志	フィリピン	学部間学術交流協定調印式出席、共同研究打ち合わせ
2014年1月5日～8日	教授 河津 信一郎	フィリピン	学部間学術交流協定調印式出席、共同研究打ち合わせ
2014年1月23日～29日	教授 井上 昇	モンゴル	SATREPS プロジェクトの研究計画についての打ち合わせ
2014年1月23日～29日	教授 横山 直明	モンゴル	SATREPS プロジェクトの研究計画についての打ち合わせ
2014年1月23日～29日	准教授 五十嵐 慎	モンゴル	疫学調査および研究打ち合わせ
2014年2月17日～19日	教授 鈴木 宏志	韓国	ジョイントワークショップ参加
2014年2月17日～19日	教授 河津 信一郎	韓国	ジョイントワークショップ参加
2014年2月24日～ 3月2日	教授 玄学 南	オーストラリア	研究打ち合わせ
2014年3月3日～9日	教授 井上 昇	マレーシア	ACTMP2014 参加

教員の海外派遣状況・続き

期 間	職 名・氏 名	渡航先(国名)	目 的
2014年3月3日～8日	教授 河津 信一郎	マレーシア	アジア熱帯医学寄生虫学会 (ACTP) 2014 参加
2014年3月13日～16日	教授 鈴木 宏志	フィリピン	Claveria 先生との研究打ち合わせ、6th Annual Meeting Phil Society of Parasitology 参加・発表
2014年3月17日～22日	教授 井上 昇	モンゴル	SATREPS プロジェクトの平成 26 年度調査研究計画打ち合わせ
2014年3月17日～22日	教授 横山 直明	モンゴル	SATREPS プロジェクトの平成 26 年度調査研究計画打ち合わせ
2014年3月23日～30日	教授 玄 学 南	韓国	韓国におけるマダニ媒介原虫感染症の調査

④ 国際共同研究

○プロジェクトタイトル： ベトナムにおける家畜の住血性原虫病（バベシア病、タイレリア病、及びトリパノソーマ病）の流行実態の解明と防疫対策の技術向上を目指した国際共同研究である。科学研究費・基盤研究 B（海外）の採択課題として実施した。

プロジェクト期間：平成 23 年から 3 年間

予算見込み額：総額 1872 万円

○プロジェクトタイトル： 基盤 B 海外学術・フィリピンにおける日本住血吸虫症の血清および分子疫学調査

プロジェクト期間：平成 24 年から 3 年間

予算見込み額：1742 万円

プロジェクト概要： フィリピンの日本住血吸虫症について、各流行地での寄生虫のライフサイクル、流行地間での寄生虫株の異同と寄生虫病の地域特性の関係を考察するプロジェクトである。(1)保虫宿主を対象とした血清疫学調査、および(2)寄生虫の各発育ステージを対象とした分子疫学調査をおこなう。

○プロジェクトタイトル： JST/JICA SATREPS モンゴルにおける家畜原虫病の疫学調査と社会実装可能な診断法の開発

プロジェクト期間：平成 25 年から 6 年間

予算見込み額：1 億 3000 万円

プロジェクト概要： トリパノソーマ病やピロプラズマ病等、多くの家畜原虫病は持続感染して慢性的に家畜の健康状態を悪化させる。国民の多くが畜産業に従事するモンゴルでは、特に深刻な問題となっている。本研究では、トリパノソーマ、ピロプラズマ野生株とそれらを媒介するマダニの分布マップ作成、原虫野生株の抗原遺伝子解析に基づく簡単に迅速な診断キットを開発、そして今後の感染対策に備えた研究資源の確保を目標としている。

○プロジェクトタイトル： 基盤 B 海外学術・モンゴルにおける家畜原虫病と冷害死の実態調査

期間：平成 25 年から 3 年間

予算見込み額：1350 万円

プロジェクト概要： 極寒が家畜に与えるストレスは、疾病に対する抵抗力を低下させ生産性を著しく悪化させる。特にモンゴルでは冷害（ゾド）が基幹産業の畜産業に深刻な被害を与えている。2010 年には国内総飼養家畜の 23%（約 1,032 万頭）が冷害で斃死しており、およそ 60 億円の損失があった。本提案課題では、我々が確立し

た原虫病診断技術を用いて家畜原虫病のアクティブサーベイランスを実施し、慢性消耗性疾患である原虫病と家畜の冷害死との因果関係を明らかにすることを目的とする。加えて、現地で継続活用可能な原虫病の簡易診断法を構築し、現地共同研究者とともに原虫病の清浄化プログラムを考案し、人材育成と国際貢献を図る。